



ココロねっこ運動20周年



家庭や地域など、生活の中で実践できる取り組みを「ココロねっこ10」として10項目にまとめた。

家庭では

- ①「早寝・早起き・朝ご飯」の生活リズムを確立させよう。
- ②毎月第3日曜日は「家庭の日」です。家族の絆を深めよう。
- ③学校・PTA行事や地域行事に、すんで参加しよう。
- ④親の責任で携帯電話を持たせるときは、子どもたちを守るためにフィルタリングを必ずしましょう。

保育所・幼稚園・学校では

- ⑤楽しい遊びや学び、わかる授業を展開し、たくましく生きる力を育みましょう。
- ⑥いじめや仲間外しがなく、安心して園・学校生活を送れるようにしましょう。

地域では

- ⑦あいさつ・声かけ運動を推進し、子どもも大人も顔見知りになりましょう。
- ⑧子どもや子育て家庭を温かく見守り、相談にのりましょう。

企業では

- ⑨「ノーマルタイム」を設定し、家族のだんらんを応援しましょう。
- ⑩学校・PTA行事や地域行事に参加しやすい雰囲気や態勢を整えましょう。



ラジオ体操後の集合写真。地域の人の見守りのもとで行われた＝大村市木場1丁目、旭が丘小

毎月第3日曜日は「家庭の日」



その中の一つ、「愛の掛付け運動」の一環として行っている「ワンワンパトロール」は、ペットを飼っている住民が愛犬の散歩の時間を活用して地域の子どもたちの登下校を見守るといった活動だ。普段の暮らしから、あたたかく見守りを通して地域のつながりを強めていくことを目的としている。「動物と触れ合うことで子どもたちの心も育ち、パトロール隊の存在によって、不審者の入り込みにくい町となり、犯罪の抑止力にも役立つ」と、田中さん。いざというときに備えて、子どもが助けを求めて飛び込む「子ども110番の家」を確保し、場所の確認や家の人との交流を深める取り組みも進められている。

子ども心の根っこを育てるため、大人のあり方を考える「ココロねっこ運動」は、2001年度に始まり、今年で20周年を迎えた。周囲から大きな影響を受けて育つ子どもたち。子どもの減少、人と人とのつながりの希薄化など、子ども・子育てをめぐる環境が変りゆく中、子どもたちの健やかな成長を支えるために長年活動が続いている人に話を聞いた。

大村市の「運動仕掛け人」

顧問である田中まり子さんは、長年にわたり大村市でココロねっこ運動を推進してきた中心的人物で、啓発活動やイベントのいわば仕掛け人。「子どもはたくましく育つためには、体験と多くの出会いを通して、夢や感動、思いやり、感謝の心を育んでいく。純粹無垢な子どもの心を汚さないようにしたい」と話す。

暮らしの中の活動が地域のつながりを強める

「ココロねっこ運動が地域に根ざしたものであるように、広報誌の発行や地区映写会、懇談会、イベントも積極的に進めている。3年前からは大村市地域活性化事業の助成を受けて新たに「キラキラフェスタ」を始めた。12月、イルミネーションで輝く赤ら吉公園にたくさんの人々が集まり、地域の小学生が中心に、地域の小中学校をほめて、保育園、学童クラブ、町内会、交通安全協会、更生保護女性会などが参加。ココロねっこ運動のメッセージを伝える「ココロねっこちゃん」も出演して大いに盛り上がった。地域で寄り添い合えるような関係を築くには、顔見知りになっ

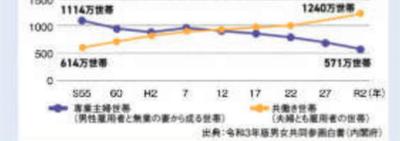
運動の広がり定着「地域」は大きな家族

「ココロねっこ運動が地域に根ざしたものであるように、広報誌の発行や地区映写会、懇談会、イベントも積極的に進めている。3年前からは大村市地域活性化事業の助成を受けて新たに「キラキラフェスタ」を始めた。12月、イルミネーションで輝く赤ら吉公園にたくさんの人々が集まり、地域の小学生が中心に、地域の小中学校をほめて、保育園、学童クラブ、町内会、交通安全協会、更生保護女性会などが参加。ココロねっこ運動のメッセージを伝える「ココロねっこちゃん」も出演して大いに盛り上がった。地域で寄り添い合えるような関係を築くには、顔見知りになっ

子ども・子育てをめぐるデータ



共働き世帯世帯数の推移(全国)



約40年前の子どもの数は38万人、人口の4分の1が子どもであったが、現在は約16万人、人口の8分の1に減少した。40年前には専業主婦世帯が共働き世帯の約2倍だったのが、現在は割合は逆転するなど、子ども・子育てをめぐる環境が大きく変化した。健やかな育ちのため、地域ぐるみで子どもを育てる必要性が拡大している。

安心なお産に向け 分娩前PCR検査に助成

県は、新型コロナウイルス感染症に強い不安を抱える妊婦に対し、分娩前PCR検査等の費用の助成を行っている。検査は出産予定日の概ね2週間以内、県内の分娩予定の産科医療機関にて、無料で受けられる。もし感染が確認された場合は、保健師等による家庭訪問や電話相談も受けられる。問い合わせは、県子ども家庭課(電話095・895・2145)。

子どもたちへの物品の寄付を募集

経済的に特に大きな困難を抱えるひとり親家庭への支援として、食生活や日用品などの生活必需品、学用品などを皆様の寄付を募集している。問い合わせは、ひとりの親家庭福祉会(電話095・828・1470)。

つなぐBANK

経済的に不安定なひとり親家庭とその子どもたちを支援する「つなぐBANK」。定期的に地域拠点となる「まほろば」でフードバンクに寄せられた食品などを無償で提供している。

妊娠・出産、子育てまでの切れ目ない支援

子育て応援の店

地域ぐるみで子育てを応援する「ながさき子育て応援の店」。小学生以下の子どもがいる子育て家庭が対象です。

- ①長崎県内にお住まいのご家庭
- ②小学生以下のお子様がいるご家庭

パスポートはデジタルでもとっても便利!

子ども食堂

「ながさき子育て応援の店」にてパスポートを掲示していただくことで、各店舗が提供しているお得な子育てサービスを受けることができます。

発達障害支援に特化した子育て支援センター

長崎インクルージョンしたラフォーテで子どもたち子育て支援センターに体を動かして遊べる「ココロねっこ」が4月に長崎市三芳町にオープンした。発達障害支援に特化したセンターを指している。

子育て世代 包括支援センター

昨年10月から雲仙市でスタートしたのは、子育て世代に対する総合的支援を実施する「子育て世代包括支援センター」。

長崎県では子どもたちの健やかな育ちのために、様々な取り組みを行っています。

なごさき子育て応援の店 ココロンパスポートでお得な子育てライフを

店舗によって様々なサービスを受けられます

- すまいるサービス
- とくとくサービス
- 多子世帯へのサービス

不妊治療費の助成制度

長崎県 特定不妊

虐待かもと思ったら

児童相談所虐待対応ダイヤル **189**番へ

親子の育ちを応援し、よりよい子育て社会を目指します。

フリーマガジン「ココロン」 年3回発行。県内幼稚園、保育所、認定こども園、地域子育て支援センター、小児科などで配布しています。

